

教えて 学んで 楽しもう

学びのトレジャー

Vol.8

2024年3月22日

結果比較と考察による
生徒の基本技能を育成する授業の展開

佐賀龍谷学園 龍谷中学校高等学校 副校長

井手 和憲 先生

本県では、平成30年度に全国大会を開催させていただき、現在は、若い先生が熱心に研究実践に取り組んでいます。

今回、唐津市での取組をご紹介させていただきたいと思います。内容B「生物育成の技術」の(2)アでは、生物が成長する仕組み、生物の分類・育種、及び生理・生態の特性等の生物育成についての原理・法則と、光、土壌や培地、気温や水温、湿度、肥料や養液、衛生といった育成環境を調節する方法などの作物、動物及び水産生物の育成に共通する基礎的な生物育成の技術の仕組みを理解することができるようにするとあります。

そこで、本校の第2学年の授業では、作物育成の技術を身に付けさせるために、簡単に栽培が可能なスプラウト、ベビーリーフ、ミニトマトの育成を通して、難易度をあげつつ、経験した育成技術との結果比較を行いながら段階的な実習を行っています。



栽培実習①のスプラウトの育成では、土壌の改善や酸度調整などの土づくり、種まき、発芽に至るまでの土壌に必要な条件等を学習させます。

栽培実習②のベビーリーフの育成では、作物の特性や生育状況に応じて間引きやかん水の時間や間隔の調整について学ばせるとともに、土壌に補う必要のある窒素、リン、カリウム等の肥料について、さらに団粒構造の培地のつくり方や土壌構造と微生物の生育について学習させていきます。

栽培実習③のミニトマトの育成では、これまでの経験則をもとに栽培計画を立案させ、摘芽・摘芯について学ばせるとともに、適切な肥料と水分を与え、その量によってミニトマトの味が変わってくることも学んでいきます。



このように栽培実習の場面において生育のポイントを小刻みにおさえた授業を展開することにより、生徒のミニトマトの育成技術の向上が図られ、その味の向上とともに、収穫の成功率が高くなることがわかります。

開隆堂